長崎市立大園小学校　校長室だより　Ｎｏ104

7月 今日の一言

８．７．２　校長　渕上　卓也



教育週間に思い返すこと

みんなと過ごした日々

長崎市立西城山小学校第三十三回卒業生

暢央君　卒業文集より

ぼくは，五年生の三学期から六年生の夏休みまで入院をしていました。入院していたので，みんなと過ごした日々は少ないです。それに，運動会や小体会の時に参加さえできませんでした。

でも，退院してからは，修学旅行やいろいろな行事に参加できたり，定期治療で遅れた勉強を教えてもらったり，図工を手伝ってもらったりして，こんなにうれしい事はありません。

ぼくは，このクラスのみんなと同じクラスでよかったと思います。

みんな今までありがとうございました。中学生になって遅れているところがあったら自分で努力して，みんなに追いつきたいと思います。

卒業してみんなと別れても，ぜったいにこの六年四組のみんなと先生の名前と顔を忘れません。

みなさん本当に今までお世話になりました。ありがとうございました。

「大園っ子の心を見つめる教育週間」には、多くの保護者の皆様、地域の皆様に御来校いただき、ありがとうございました。途中大雨の影響で休校もありましたが、子どもたちの応援に来ていただけたことが、非常に心強かったです。これからも、学校、家庭、地域が連携・協働して取り組み、豊かな心をもつ大園っ子を育んでいきましょう。

さて、上記の作文は、毎年この時期に紹介する、私が初めて卒業担任をした時の卒業文集の一文です。教育週間には、毎年読み返しています。「ぼくは、このクラスのみんなと同じクラスでよかったと思います。」　今でもこういう思いを子ども一人一人にもたせることが、私の目標ですし、まさに「しあわせいっぱいの学校」の姿です。

もうすぐ彼の命日。先日、彼の同級生たちと集まり、思い出話に花を咲かせました。今年４７歳になるとのこと。時の経つのは早いですね。いくら時間が経とうとも、彼から伝えられた「ぼくは、このクラスのみんなと同じクラスでよかったと思います。」という思いは、永遠に私が語り継いでいきます。



＜今日の一句＞

教え子に
育ててもらい
今がある　　**卓也**